

## 愛知県生涯学習推進センター情報誌

編集・発行/愛知県教育委員会生涯学習課 生涯学習推進センター

〒460-0001 名古屋市中区三の丸三丁目2番1号(愛知県東大手庁舎2階)

TEL 052-961-5333 FAX 052-961-0232 URL <http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/shogai/llcenter/>



### INDEX[目次]

<b>特集「リカレント教育」情報</b> .....	2
いんたびゅー.....	1
講座・講習会、イベント情報.....	5
ネットワーク機関紹介.....	12
ボランティア活動紹介.....	13
愛知万博ニュース.....	16
公民館活動紹介.....	17
生涯学習推進センターより.....	18

### 西春町生涯学習講座

#### 「はるっこスクール」

こどもや親子を対象とした講座・教室の総称として「はるっこスクール」と言っています。

子ども囲碁・将棋クラブ、子ども太鼓クラブや、子どもたちの体験活動への意欲を高めるため、季節ごとに自然教室(海・山)、科学実験教室、国際交流教室、洋菓子づくり教室など、講師に地域の人をお願いして幅広く実施しています。

特に、よくばりクラブは名前のごとく野外活動から伝統文化まで多岐にわたり、NPO法人あすなるの企画により実施しています。

### 渡部 與明(わたなべ よしあき)さん

産業カウンセラー、児童福祉司、現在、児童クラブ指導員、あいち生涯学習インストラクターの会会員。働きながら学習して様々な資格を取得。本人曰く「真面目でのめり込んでしまう」性格。最近は趣味のカメラで近くの風景や野鳥を撮影し、歯科の待合やパン屋に飾っている。「毎日が楽しい」と嬉しそうに語る姿が印象的だ。



生涯学習という分野に踏み出そうとしたきっかけは、

渡部: 私自身がいわゆるカウンセラーの仕事をして、患者さんの心理面や生活、社会復帰のお手伝いをしてきました。人が病むということは生活障害をとまなっているのです、どうしても多面的に援助しなくてはならない。そこで様々な分野を知らなければいけないと思い、働きながら専門的な学習してきました。それが大いに自己成長につながっていると思います。

働きながら学習しようとする場合、どんな困難がありますか。

渡部: やはり、系統的、専門的な学習となると時間が確保できないことじゃないでしょうか。でも、これまでは学校自体に行くことが教育や学習の中心でしたが、現在はメディアを使ったり衛星放送を利用したりインターネットで学習したりなど学習の方法が多様化し、昔に比べれば随分学習しやすい環境になりましたね。また、一人で学習していると生活や雑念などの様々なことに流されることもあります。

渡部さんが継続して学習できた支えは何ですか。

渡部: 色んなことを楽しんでやれたんです。通信教育でのスクーリングではたくさんの人に会えたし、学習していること自体が楽しかったんです。

また、私は職場に自分の部屋があったものですから、朝6時頃には出勤し2時間半ほど集中して学習が出来ました。土日はできるだけ家族と付き合いや遊ぶように努めました。他に定期的に必ず試験を受けることにし、そうやって10年間くらい勉強しましたね。

やはり学習で様々なことを知るによって、それを提供

して少しでも人の力になれば嬉しいじゃないですか。

しかし、資格などをとってても社会が評価してくれない状況がありますね。

渡部: 私は会社などから資格を持っていることで評価してもらおうと思っていませんでした。仕事があまくいけばいいし、少しでも豊かに仕事ができればいいと思っていました。自分自身に対して貪欲なのかもしれません。いずれ社会の価値観は確実に変わりますね。

その前向きな気持ちを持っている背景は何でしょうか。

渡部: 多分コンプレックスでしょう。自分は学生時代あまり勉強しませんでした。それに比べて兄は成績がよかったので、私には劣等感があったのでしょうか。それを克服したいという気持ちがずっとあって、いつか恥ずかしくない自分になりたいと。

最後に生涯学習を始めようとしている方にメッセージを。

渡部: 自分の好きなことや関心のあることに目を向けて、学習を始めるといいですよ。やりながら自分を発見でき、発見できると世界が広がる、個性化にもつながる、友達もできる、状況も開けますね。人ばかりでなく世界との出会いがある。前向きな気持ちでやろうということがよい展開に結びつく。楽しくやれば様々な障害があっても克服できると思います。そして、平凡でも一つ一つを重ねていけば、必ず成果が得られるものだと思います。

聞き手: 森 勝昭(生涯学習インストラクター・生涯学習推進センター運営支援ボランティア)

このコーナーでは、愛知県内のリカレント教育について紹介します。

## リカレント教育の現状について

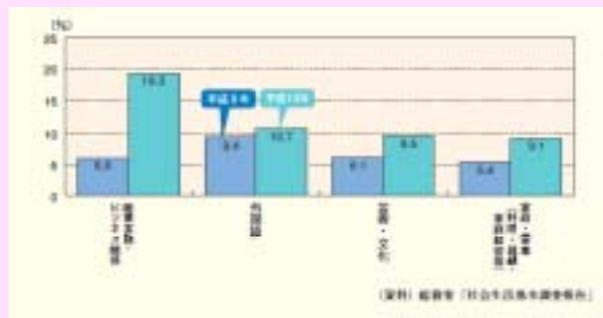
牧野 篤(名古屋大学大学院)

リカレント教育は、OECD(経済協力開発機構)が加盟国における今後の教育政策のあり方として提唱した、教育機会の均等をより徹底するための成人を対象とした新しい教育の形です。それは、とくに、学校教育を終えてから、生涯にわたって職業能力を開発し続けること、そのために、教育資源を学校だけに集中させるのではなく、社会のあらゆる場所で、あらゆる機会に学習ができるように配置することを求めるところに特徴があります。このように、もともと、リカレント教育は、高度産業社会において、不断に更新される知識や技術に、人々が対応していくことを保障するために考え出されたものです。

昨今の日本のように、グローバル化の進展による経済構造の変容、そしてそれがもたらす雇用の流動化という社会では、高度化する技術や知識に対応するだけでなく、企業横断的に評価される力をつけることが求められるようになりました。それが、働く人々のリカレント教育への要求を強め、高度化しています。つまり、高等教育とくに大学院におけるリカレント教育の需要が高まっているのです。しかも、大学院におけるリカレント教育への需要の高まりは、教育を受ける人の必要からだけではなく、若年者人口が減少し、入学検定料や授業料収入が減っている高等教育機関が、自らの経営問題ともかかわらせて見出した、新しい社会的使命として、リカレント教育が位置づけられはじめたことが背景にあります。( < 図1 > は成人の学ぶ内容が、急速にビジネスや実務関係に集中

していることを、 < 図2 > は社会人大学院生の増加が著しいことを示しています。)

いわば、昨今の日本におけるリカレント教育の急速な発展は、教育を受ける人と提供する側の双方の利害が一致したところで生み出されている、まさに社会的なニーズに応えるものであることができます。そして、それが故に、受益者負担主義が強調されがちですが、本来的には、人々がより高度な知識や技術を身につけ、また社会における高等教育機関の役割が拡大することによって、社会全体の生産性が高まるとともに、社会の知的水準が上がることにつながるのですから、できる限りの公的な保障が望まれます。



< 図1 > 成人の学習内容 (平成8年と13年)  
文部科学省『データから見る日本の教育(2004)』



< 図2 > 社会人大学院生の増加推移  
文部科学省『データから見る日本の教育(2004)』

# ことば

## 「リカレント教育」とは？

リカレント教育という概念は、1969年の第6回ヨーロッパ文相会議においてスウェーデン文相O. パルメが取り上げたのが最初です。1970年にOECD(経済協力開発機構)がこれを公式に採用し、生涯教育構想具体化の戦略の一つとして位置づけられるようになりました。OECDにおけるリカレント教育は、青少年期という早い時期に集中していた教育を「血液が人体を循環するように、個人の全生涯にわたって循環させよう」とするところに主要な特徴がありました。

もともと「リカレント」とは、「回帰する」、「還流する」、「循環する」という意味で、リカレント教育は、「**社会人が、職業上の新たな知識・技術を習得するために、また、日常生活において人間性を高めるために必要とする高度で専門的な教育である**」と言えます。

生涯学習の理念が、個人の自発的な意思で行う学習を生涯にわたって支援する環境づくりを目指しているのに対して、リカレント教育は主として職業生活とのかかわりの中で学習の機会を保証することを目的としている点などに違いがあります。(県生涯学習課)

# レポート

## 平成16年度 愛知県リカレント教育推進会議

去る11月18日、「公開授業と団塊の世代の第二の人生」をテーマに平成16年度愛知県リカレント教育推進会議が開催されました。参加者は市町村の生涯学習担当者や大学を始めとする高等教育機関、生涯学習関係団体などの担当者96名。会議の冒頭で県生涯学習課より県内のリカレント教育推進の状況の説明があり、少しずつ増加している市町村と高等教育機関との連携講座開設状況などが報告されました。

続いて、名古屋大学大学院助教授の牧野篤先生より、名大で実験的に行われている授業を公開する取組状況の講演があり、授業公開に至る経緯や苦労、受講者アンケート結果、今後の課題などが報告されました。

会議後半では、事例発表として、実際に名大の公開授業を受講した方の感想や生涯学習を通じたまちづくりの実践報告、学生経営のカフェで実施されている名古屋学院大学のまちづくり活動公開授業の様子が発表されました。(県生涯学習課)

ここからは、愛知県生涯学習情報システム「学びネットあいち」に登録されているリカレント教育情報を紹介します。

## 社会人特別選抜入試とは？

社会人が一般の志願者と同様に学力検査を受け大学に入学することは困難なため、入学者の選抜にあたり、社会人に対して学力検査を免除あるいは軽減し、小論文や面接等を中心に、経験や勉強意欲をみることに主眼を置いて行う制度

学校名	募集研究科	募集人員	出願期間	問合せ先
名古屋大学大学院	文学研究科博士前期課程	~ 若干名	1/6～12 1/11～17 1/5～11 1/17～21 1/5～7 1/17～21 1/19～25 1/7～14 【すべてに共通】 受付時間 9:00～16:00 (12:00～13:00は除く)	文学部・文学研究科教務 学生掛 052-789-2207
	文学研究科博士後期課程			教育学部・教育発達科学研究科教務学生掛 052-789-2606
	教育発達科学研究学科			法学部・法学研究科教務 学生掛 052-789-2316
	博士後期課程			工学部・工学研究科教務課 052-789-3978
	法学研究科博士後期課程			農学部・生命農学研究科 教務学生掛 052-789-4967,4010
	応用法政コース			国際開発研究科事務掛 052-789-4956
	工学研究科			国際言語文化研究科 事務室 052-789-4881
	博士後期課程			環境学研究科入試事務室 052-789-4590
	生命農学研究科			
	博士後期課程			
	国際開発研究科博士後期 課程国際協力専攻			
	国際言語文化研究科			
	博士後期課程			
	環境学研究科			
博士前期課程				
環境学研究科				
博士後期課程				

## 聴講生・研究生とは？

教育課程の全部の履修を目的とする正規の学生と異なり、聴講生は大学等の授業の一部を履修することを目的とし、研究生は特別の事項について研究することを目的にして、各大学等の学則によって慣行的に認められてきた制度

## 科目等履修生とは？

大学学部等で開設されている授業科目の一部を履修し、正規の単位を修得できる制度  
言い換えると前記の聴講生に正規の単位が授与できることとした制度

学校名	募集研究科・学部	出願期間	問合せ先
名古屋大学大学院	法学研究科 経済学研究科 医学系研究科(修士課程) 工学研究科 生命農学研究科 多元数理科学研究科 国際言語文化研究科 環境学研究科 (大学院研究生のみ募集) 情報科学研究科	前期:平成17年2月～3月 後期:平成17年8月～9月  ただし、経済学研究科については前期、後期ともに3月 環境学研究科については前期:平成17年2月、後期:平成17年8月  詳しい日程については、各学部教務学生掛へお問い合わせ下さい。	法学部・法学研究科教務学生掛 052-789-2316 経済学部・経済学研究科教務学生掛 052-789-2357 医学部・医学系研究科学務課 第一学務掛 052-744-2430 第二学務掛 052-719-1522 工学部・工学研究科教務課教務掛 052-789-3974 農学部・生命農学研究科教務学生掛 052-789-4299 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科教務学生掛 052-789-2808 国際言語文化研究科事務室 052-789-4881 環境学研究科大学院担当 052-789-4590 情報文化学部・情報科学研究科教務学生掛 052-789-4721
名古屋大学	文学部 教育学部 法学部 経済学部 情報文化学部 理学部 医学部 工学部 農学部	前期:平成17年2月～3月 後期:平成17年8月～9月 ただし、経済学部、医学部医学科については前期、後期ともに2～3月 詳しい日程については、各学部教務学生掛へお問い合わせ下さい。	文学部・文学研究科教務学生掛 052-789-2206 教育学部・教育発達科学研究科教務学生掛 052-789-2606 法学部・法学研究科教務学生掛 052-789-2316 経済学部・経済学研究科教務学生掛 052-789-2357 情報文化学部・情報科学研究科教務学生掛 052-789-4721 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科教務学生掛 052-789-2808 医学系研究科学務課 第一学務掛 052-744-2430 第二学務掛 052-719-1522 工学部・工学研究科教務課教務掛 052-789-3974 農学部・生命農学研究科教務学生掛 052-789-4299

## 放送大学 平成17年度第1学期学生募集について

### 出願期間:

平成16年12月15日(水)～平成17年2月28日(月)

詳しくは、放送大学本部や学習センター、サテライトスペース、主な書店等で無料配布している学生募集要項をご覧ください。

### 放送大学愛知学習センター

名古屋市昭和区八事本町 101-2 中京大学センタービル4階

052-831-1771 <http://www.u-air.ac.jp/>

## 放送大学とは？

テレビ・ラジオ等を活用して大学教育の機会を広く提供すること等を目的として設置された正規の大学  
昭和60年度から学生の受入れを行っており、愛知県には、平成4年に放送大学愛知ビデオ学習センターが設置され、平成10年4月から放送大学愛知学習センターと改組しています。(中京大学構内)

## 明るく活力あふれる長寿社会をめざして



「あいちシルバーカレッジ」受講生の様子

長寿社会振興センターでは、県民の皆様には高齢社会の理解を深めていただくとともに、高齢者ひとりひとりが生涯を健康で生きがいをもって過ごせるよう、さまざまな支援事業を実施しています。

中でも、「あいちシルバーカレッジ」教養学部は、充実したシルバーライフに役立つ多彩なカリキュラムと講師陣による1年間の学習講座です。現在、名古屋市・豊橋市・一宮市・岡崎市で、60歳以上の方を対象に開講しています。

他にも、文化イベント(講演会)と健康イベントからなる「生き生き長寿フェア」の開催、高齢者に役立つ生活情報誌「あいちいきいき人生」の発行、全国健康福祉祭(通称「ねんりんピック」)への愛知県選手団の派遣等を行っています。

こうした各種行事のお知らせやご案内は、当センターのホームページで随時紹介していますので、ぜひご覧ください。

なお、当センターでは、中高年者のサークル活動の情報を募集しています。お寄せいただいた情報は、ホームページや情報誌で紹介する等、皆様の仲間づくり支援に活用していますので、ご協力をお願いします。

住所： 名古屋市中区三の丸1-7-2  
桜華会館2階  
電話： 052-222-0700  
FAX： 052-222-0668  
Mail： ai-choju@proof.ocn.ne.jp  
ホームページ：  
<http://www.nenrin.or.jp/aichi/>

愛知県社会福祉協議会長寿社会振興センター

「ネットワーク機関」とは生涯学習情報を「学びネットあいち」に提供して下さる生涯学習関連機関・団体で、随時募集しています。  
詳しくは愛知県生涯学習推進センター(電話052-961-5333)にお問合せいただくか、ホームページ(<http://www.manabi.pref.aichi.jp/>)をご覧ください。

### がん患者さん・ご家族・ケアする人のための無料電話相談 「がん 心のケア ほっとライン」



がん患者さんやご家族、ケアする方の苦しい胸の内を電話を通して無料でお聴きするのが「がん 心のケア ほっとライン」です。身体の痛みや治療のつらさ、なぜ私か?などの疑問や不安、やりきれない思いをありのままに受けとめ、一緒にどうしたら安心できるかを考えていきましょう。どうにもならないと思えることも、その苦しさを人に話しているうちに、思いがけない展望が開けてくることがあります。人と分かち合うことで、悲しみは半分になり、喜びは倍になるともいいます。語り合うことで、まずはほっとしていただきたいと願って「ほっとライン」と名付けました。

どうか遠慮なく、つもる思いをお話してください。お聴きしたことは誰にも話しません。秘密はしっかりと守ります。お名前もご住所も伺いません。肩書や背景なしで、人と人として電話を通して会いましょう。気の済むまで十分にお話しくださいますように。

「がん 心のケアの会」代表 毛利祐子

: 052 - 836 - 7565  
毎週木曜・金曜  
10:00 ~ 16:00  
祝日休み  
「がん 心のケアの会」提供

〔2003年度活動報告より〕  
お話のテーマ

心の問題	34%
治療関係	35%
人間関係	14%
これからの生き方	9%
家族から	8%

# ボランティア活動紹介

今回は豊田加茂地区特集です。

## 助け合いの心を小原に広げたい

「ふれあいまつり」が開催されたのは5年前。リサイクルを中心に活動を続けていた“おおぼこの会”が、何か楽しいことでボランティアを広げようと、それまでは個々に活動していた団体と協力し合ったのが始まりでした。

高齢者福祉、子育て、災害援助、ボランティアの目的がさまざま、当初は、この活動が実を結ぶことができるか不安でした。しかし、各団体としても小原村という小さな地域で限界を感じていたこと、ボランティアは目的や手段ではなく、助け合うことであると誰もが思ったことで一つにまとまることのできたと思います。

今年は21の団体と、中学校の総合学習で福祉を選択する生徒、ボランティアセンターに登録のない方たちも参加していただき、有意義な秋の一日となりました。

慣れない手つきで小麦粉を練りうどんを作る中学生、均等に切り分ける真剣なまな



ざしには、模擬店での販売とは別に「誰かのために」という気持ちがあふれています。

アトラクションとして披露される三味線や箏、舞踊ももちろんこのふれあいまつりの趣旨に賛同して集まっていた方ばかり。「人前で発表する機会ができ、私たちも喜んでいるんですよ」それまでは個人の趣味として行っていたものがボランティアと結びついた瞬間です。



ふれあいまつりは、実行委員会を組織して全てを自主運営しています。でも、本当の意味でのこの行事を支えているのは、会場に足を運んでくれる方、「何かやっているから見に行ってみよう」そんな間接的なボランティアの方だと思います。私たちは、活動の場とお互いに知り合える場の提供を通して、助け合いの心を小原村の地域に根付かせていきたいと思っています。



### ふれあいまつり実行委員会

活動場所：ふくしの里  
 連絡先：小原村社会福祉協議会  
 ボランティアセンター  
 TEL：0565-65-3350

## 世代を超えたふれあいの場



### 井上登夫(いのうえたかお)

活動場所 : 小原村緑の公園  
連絡先 : 小原村教育委員会  
TEL : 0565-65-2001

子どもたちにテニスの楽しさを伝えたいと、スポーツ教室のインストラクターを務める井上さん。毎週木曜日の夜、仕事を終え仲間たちと小中学生にソフトテニスを教えています。

もともとは、中学生(ソフトテニス部)の指導をしていたところ、小学生も対象にやってみないかと、教育委員会からの誘いを受けて活動を開始。今では総勢45名が井上さんのもとに集まります。

教室風景を覗いて見ると、いつもどこから笑い声が聞こえてきます。遊び感覚で行っているようですが、ふざけている子を目にするると、怪我の怖さや、周りの子の迷惑を言って聞かせます。

「子どものころは学校で横や縦のつながりを持たなかったじゃないですか。それが卒業しちゃうとつながりがなくなってしまうのが残念ですね。」地域のつながりを大切にしていきたいという気持ちは、きっと子どもたちに伝わることと思います。技術よりも心のふれあいを大切にしているからこそ、今日も「たかおっさ」のもとにたくさん子どもたちが集まります。

## 本当のボランティアは地域を思う心

勝上さんは、自宅近くの独居老人世帯をまわり、話し相手として活動しています。孤独になりがちな一人暮らしのお年寄りとお話を交わすことで、少しでも笑顔を取り戻すきっかけをつくりたいと、教職を退いてからこの活動を始めました。

人との会話は慣れているとは言うものの、迷惑がられるのでは、話してくれないのではないかと、最初はとても気にしていました。ところが、実際に行ってみると「また来ておくれん」と言われ、自分の行動に自信がもてるようになり、気がついたら10年近く続けていたと言います。

毎月6軒の家庭におじゃまして、掃除を手伝ったり、料理を作ったりしながらコミュニケーションを深めていきます。体調の具合にも目を配り、異常がある場合は社会福祉協議会への連絡も欠かせません。「地元のことだから助け合わない」と地域に根ざした活動こそが、ボランティアの本当の姿であると勝上さんは教えてくれます。



### 勝上正枝(かつうえまさえ)

活動場所 : 小原村社会福祉協議会  
連絡先 : 小原村教育委員会  
TEL : 0565-65-2001

## 子育てネットワークとして



### 吉田郁子

活動場所: 蟹江町中央公民館  
連絡先: 蟹江町教育委員会  
生涯学習課  
TEL: 0567-95-1111

蟹江町には子育てネットワーク養成講座を受講し修了した3名のネットワークがあります。親子での「リトミック教室」や幼児をもつ親子を対象とした「幼児の親の教室」に若いお母さん方と共に参加させて頂いています。その中で育児の悩みや不安をきいたりなど子育ての経験者としてお母さん方の力になれたらと思って活動しています。今年度はネットワークとして食育の話や親子でのふれ合いを大切にしながら遊びを取り入れてみました。又、クリスマスリース作りも計画し、お母さんのお楽しみの時間も味わってもらえたらと思っています。来年度には行政の方と十分な話し合いをし連携をとって、また新たな楽しい企画活動を取り入れたいと思います。喜んで参加して頂ける活動を考えていきたいです。友達や仲間作りの場にもなれたらと思います。今後も勉強会、講演などに参加したり、他のネットワークの方々とは情報交換したりなど元気に活動していきたいと思っています。

## 子育てネットワーク 尾張北

子育てネットワークは子育て中の親と親との結び手、子育て支援活動者と子育て中の親との結び手、行政と子育て中の親との結び手、子育て支援活動者同士の結び手等、様々な結び手となり、身近な地域で活動を続けています。柔軟な対応をしながら活動するためには、常に自己研鑽が必要です。尾張地域17市町村の仲間が集まり会を設立しました。子育て支援は子育て支援をされる人、子育て支援をする人という考え方でなく、ともに「育て」「育ちあう」ことです。子育て中の家庭への地域ぐるみのサポート体制を、子育て真っ最中の親とともに考えていくために、平成16年12月5日「おわり子育てひろば」を愛知県子育て支援センター連絡協議会尾張地域の先生方とともに開催いたします。あなたの近くにもネットワークがあります。そこにすれば誰かに会える、話ができる、楽しい気持ちになれます…



### 藤岡喜美子

連絡先: 自宅  
TEL・FAX: 0587-95-5289  
Eメール: kimi7@m10.alpha-net.ne.jp

## 万博が結ぶ、世界の国とのフレンドシップ 「一市町村一国フレンドシップ事業」

愛知万博には海外から多数の国がパビリオンを出展します。一市町村一国フレンドシップ事業は、県内の各市町村がパートナーを組んだ参加国のホームシティ、ホームタウンとなり、地域を挙げホスピタリティ溢れるおもてなしの心で、海外から訪れる方々を温かくお迎えし、交流を深めるものです。

もうすでに、それぞれの地域で草の根交流を含め文化・教育など幅広い分野での国際交流が行われています。こうした交流は、万博の開幕が迫るにつれて一層盛り上がりを見せています。また、会期中には長久手会場で各国が開催する公式行事「ナショナルデー」に協力、参加することとなっています。

このように、万博を契機として、様々な交流事業が計画されていますので、皆様のお住まいの地域におかれまして、積極的なご参加をお願いします。

(国際博推進局)

参加国と市町村の組み合わせは右記のホームページをご覧ください。



【駐日大使の小学校訪問】

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

TEL:052-961-2111(内線 4950-453)

FAX:052-962-4404

ダイヤルイン:052-962-4039

ホームページ:

<http://www.pref.aichi.jp/expo/>

国際博推進局参加出展課県民参加グループ

## ご利用ください！「学びネットあいち」愛知万博情報サイト



愛知県生涯学習情報システム「学びネットあいち」では、「学びネットあいち」に登録されている愛知万博関連の講座やイベントなどの情報を検索できるWebページを開設しています。

現在は情報数が少ない状況ですが、今後、万博の開催が近づくにつれて、また開催期間中は情報数が増えていくことでしょう。

ぜひ一度アクセスして、あなたの万博に関する計画にご利用してはいかがでしょうか。

(県生涯学習課)

【愛知万博(愛・地球博)情報サイトのホームページアドレス】

<http://www.manabi.pref.aichi.jp/general/aichikyuhaku/top.html>

## 集まり・学び・ふれあいをモットーに 地域の子どもに密着した公民館活動を ～ 蒲郡市 ～

神ノ郷町は蒲郡市の中ほどに位置し、南北に細長く、南裾から続くみかん畑と、全国に誇るハウスみかんの主産地です。地域性から地域住民の公民館活動は夜間が主体となるため土曜日、日曜日には子どもたちを中心とした活動を小学校、PTA、老人クラブ、子ども会と協力し、積極的に取り組んでいます。

子どもの公民館講座(毎年実施している講座)

- 6月 楽しい科学工作教室
- 8月 自然学習と体験学習(日帰りキャンプ)
- 11月 秋の星空観察
- 1月 新春カルタ会
- 2月 よいこの読書会

自然学習と体験学習(日帰りキャンプ)

館長から「けがや事故に気をつけ、楽しい体験をして下さい。」とのあいさつをうけ、キャンプ場(やまびこの丘)に到着。

女性防火クラブ員の指導を受け、非常食の炊き出し訓練を兼ねた昼食の準備。前日PTAや子ども会の役員さんが準備してくれた材料で、高学年生がリーダーとなって、グループ毎にカレーづくりを始めました。かまどの薪に火をつけ、カレーの調理をしながら、食後のマスカミの作戦を立てました。また、付近の散策を少ししました。

ほどなくおいしそうなご飯とカレーができあがり、楽しい食事タイムです。お代わり自由、みんなと一諸だときらいな野菜もたくさん食べられました。

食後は、今日一番の楽しみマスのつかみ取りです。放流されたマスを一匹ずつ捕まえました。

マスをきれいに洗い、調理し、かまどの火で焼

きました。『こんなおいしいカレーと、マス焼きは初めて』との声。

来年も是非実施してほしいと全員の声でした。

新春カルタ大会

平成16年のおだやかな元旦を迎え、静かな3ケ日もすぎた冬休みの最後の日曜日、たくさんの子ども達がお母さんと一諸に参加してくれました。

詠み人は渡邊克子さん、子どもたちに『百人一首』の歴史、おもしろさ、楽しさをやさしく説明してくれました。

今年は低学年から、4グループに分かれ全員で「百人一首」に挑戦しました。凜とした雰囲気の中にも、さわやかな詠み人の声が流れ、新春にふさわしいひと時を演出してくれました。

初めて参加した子ども大勢いましたが、緊張の中にも、楽しさを味わってくれたことと思いました。

大会終了後は、参加してくれたお母さん達が作ってくれたお汁粉をごちそうになり、最後の福引き大会でも、全員に賞品が当たり楽しい一日でした。

その他の公民館行事等にも、協力を呼びかけ積極的に参加してもらっています。

健康でやさしく、たくましく、おもしろいのある、感性ゆたかで元気な子どもたちが育ってくれるよう地域の協力を得ながら、今後も活動を続けていきたいと思っています。



# 生涯学習推進センターからのお知らせ

## 地域子ども教室推進事業の活動事例をご紹介します

### 東 海 市

東海市地域子ども教室を紹介します。

市内12小学校で、学校の放課後(平日)に、週1回それぞれの学校の体育館や教室を活用して、様々な体験教室を開催しています。

講師として、地域の大人、文化協会、国際交流協会等の方に協力していただき、和太鼓、茶道、民踊、短歌、川柳、詩歌、打楽器、英語、押絵、スライム、万華鏡など多彩な教室を展開しています。中でも、スライムや万華鏡など、もの作りの教室は人気があり多数の参加者があります。

また、日ごろ接することが少ない和太鼓、茶道、短歌、詩歌など伝統文化的なものについては初めて体験する子どもたちも多く、戸惑いながらも放課後のひとときを楽しくすごしています。



【スライム教室】



【和太鼓教室】

#### 「地域子ども教室推進事業」とは？

地域の大人の教育力を集結し、学校を活用して、子どもたちの放課後や週末におけるスポーツや文化活動などの様々な体験活動や地域住民との交流活動等を支援する指導員を派遣し、緊急かつ計画的に子どもたちの居場所(活動拠点)の整備を行う事業です。

【子どもの居場所づくり】

<http://www.ibasyo.com/>

## 愛 知 県 生 涯 学 習 推 進 セ ン タ ー

開館時間

9:00 ~ 21:00

休館日

日曜・年末年始

電 話

052-961-5333

FAX

052-961-0232

ホームページ

<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/shogai/llcenter/>

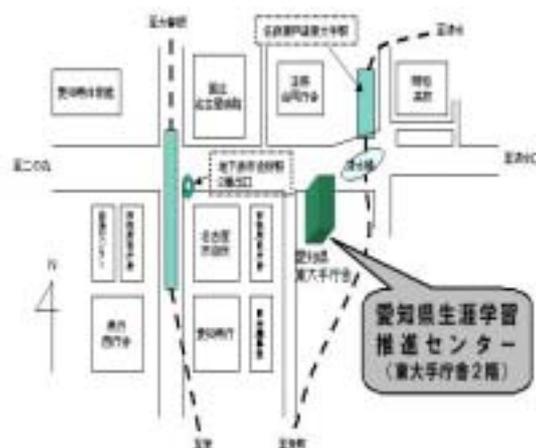
メール

[syogaigakushu@pref.aichi.lg.jp](mailto:syogaigakushu@pref.aichi.lg.jp)

交通案内

地下鉄「市役所」駅2番出口東へ徒歩約3分  
 名鉄瀬戸線「東大手」駅南へ徒歩約4分  
 基幹バス「市役所」下車東へ徒歩約5分

駐車台数に限りがありますので、公共交通機関のご利用にご協力ください。



## エコハウス138(いちさんはち)



【外観】



【温水プール】



生涯学習のマスコット“マナビ”

当施設は、平成13年4月にオープンした温水プール、トレーニングルームを始めとした健康増進施設と、環境部直轄の環境学習施設の2本柱からなる複合施設です。

この施設で使用する主なエネルギーは、環境センターのごみ焼却時に発生する余熱を利用した高温水や電力で、一部、屋上に設置してあります太陽光・風力発電設備による新エネルギーも使用しています。

エコハウスは名前のとおり、環境にやさしい施設として、屋上緑化や廃材を利用したタイル等を使用し、環境問題に対する市民の意識を深めていただくことも、大きな目的となっています。

**温水プール** 25mプール、健康増進プール、ウォーキングプール、幼児プール、ジャグジーの5種類のプールがあります。中でも健康増進プールは、5つのゾーンに分かれ、どれもがマッサージ効果が得られるとして利用者に喜ばれています。

**トレーニングルーム** 有酸素運動系マシン(エアロバイク、ランニングマシン、ステップマシン等)及びウエイトトレーニングマシンを完備し、指導員が個人毎にプログラムを作成しており、各自が目標をもって頑張っています。

**その他** エコ情報センター、体験学習室、プレイルーム、レストラン等があります。

住所	(〒491-0201)一宮市奥町字八瀬割40-1
電話	0586-47-7138
FAX	0586-43-5898
E-mail	skanri@city.ichinomiya.lg.jp
開館時間	午前10時～午後9時
休館日	毎月第1・第3水曜日及び祝祭日の翌日 12月28日～1月8日
使用料	温水プール 大人400円 小人200円 トレーニングルーム 大人400円 その他同伴割引及び回数券あり 心身障害者及び小学校就学前の者は無料

編集・発行 / 愛知県教育委員会生涯学習課 生涯学習推進センター  
平成16年12月 8,000部発行  
〒460-0001 名古屋市中区三の丸三丁目2番1号 電話 052-961-5333

